

【配点】  
 ① 各1点×12  
 ② 各2点×6  
 ③ 各6点×6  
 その他各4点×10

1 船をこぐ

2 日本人は「会議はつまらないもの」と考えているから。  
 日本ではつまらない会議が多いから。

3 日本人のスピーチが論理的ではないこと。  
 日本人が論理的な話は好きではないこと。

4 エ・オ (完答・順不同)

5 会議で求められるのは論理性であり、その結論をとは、理由を明示して、それに基づいて論議する、切示し、その結果、だ。から。基づく結論

6 結論のないスピーチ 7 即興性 8 頭に浮かん

2 秒単位の差 3 ウ (同意可)

1 全員があと三秒タイムを縮めるのは不可能ではなかったか。の、そのタイムを縮めるには優勝を逃してしま

4 A 山岸良太を出して B あと三秒速く走れて

5 たただ、こん 6 ア 7 どんよりとした空気が (4 同意可・完答)

8 県大会二位と聞いて、過去の最高記録を出したのだから誇りに思う。うべきで、あり、自信をもった。日からは、またに、さんが、うべれば、よいと、い、自信をもった。明

3 1 助成 ② 当初 ③ 等分 ④ 主導 ⑤ 後任 ⑥ 動向 ⑦ 解明 ⑧ 標高 ⑨ 起因 ⑩ 快挙

11 こうぎょう 12 うぞうむぞう

2 ① 異 ② 星 ③ 開 ④ 課 ⑤ 期 ⑥ 局

1

- 1 この後を読んでいくと、「…居眠りをしています。…サミットで首相が船をこぐ姿を目撃したことはありませんが、日本人はよく眠ります」とある。この文脈で、ほんとうに「船をこぐ」はずがない。座ったまま身体を前後に揺らして居眠りをする姿が船をこぐ様子に似ているところから生まれたことばである。
- 2 いくつか例が書かれた後、「あえて理由を探せば」とあることに注目する。この後の部分が「…あるいは…」となっていることから、二つの理由が書かれていることに気づくはずである。しかも、その後に「原因は何か」とあり、問3ともうまく結び付く。いちおう記述の問題ではあるが、ほぼぬき出しで書けるので、あえて表現を変える必要はない。
- 3 問2で答えた部分の後に「原因は何か。日本人のスピーチにある」と書かれている。さらに読み進めると「スピーチの論理性」について書かれている。話す側に立ったとき、論理的に話せないということがまず答えになりそうだが、「もしかしたら…」の段落に「それが居眠りの原因と考えることもできる」とある。その直前は「聞く側」について書かれているので、話す側と聞く側のそれぞれについて書けばよいことになる。解答は、話す側については簡潔にまとめた書き方をおいたが、「もしかしたら…」の一文を利用して書いてもよいだろう。
- 4 「余白を読み取る文化」「沈黙を尊ぶ文化」と結び付く言葉になる。「不言実行」は、あれこれ言わずに、なすべきことを実行すること、「以心伝心」は、考えていることが言葉を使わなくてもおたがいにおたがいにわかることである。「異口同音」は、みんなが口をそろえて同じように言うこと、「一意専心」は、ほかのことを考えずそのことだけに心を集中すること、「優柔不断」は、ぐずぐずして物事の決断がにぶいこと、「針小棒大」は、物事を大げさに誇張して表現することである。
- 5 直前の段落の例があげられている段落なので、直前の段落の内容をまとめればよい。会議においてであること、スピーチには論理性が必要なことをふまえたうえで、スピーチの論理性とはどういうものであるかについて書くことになる。
- 6 論理性のないスピーチに関連した例をあげて、再び「スピーチ」に話をもどしている。「だから、何？」とは、結局何が言いたいのかと問うているのである。解答になる部分の前には「論旨のはっきりしないスピーチ」とあって、内容的にはこれもあてはまるが、字数が合わない。
- 7 直後で、「即興性」「その瞬間に思いついたことを話してしまう」と言いかえて説明している。「三字」という条件から「即興性」になるが、本文の後のほうに「即興的」という言葉もある。「…傾向」を言いかえた言葉としてはどちらが適当か、しっかり考えてほしい。
- 8 同じ段落に「スピーチ全体の論理的な枠組み」という言葉があり、これが答えのポイントになるが、この部分では「どうするか」に対する答えが「まとめて書かれている」とは言いがたい。次の段落で「たとえば…」として例をあげた後、新たな段落を作って答えをまとめていく。

2

- 1 次の段落で「もしも、もしも、の後悔」とあるので、その後に具体的に書かれている内容をまとめることになる。範囲は「そういうこと」の前までである。「勝てるはずなのに負けた」ということが書くべきポイントだろう。
- 2 問1で答えた、「そういうこと」のさしていることがらであるが、「これより後」という条件に注意しなければならない。「おっさん」の「わかったような口」の内容であり、「…などという台詞」という言葉で受けられている部分である。
- 3 「不適當なもの」を選ぶことに注意する。チームを優勝に導けるだけの力を持ったエースの良太が出場していなかったこと、惜しいタイムで優勝を逃していることをふまえて、「おっさん」が良太の父親であることと結び付けて考えると、ウ以外はあてはまる。この批判は「専門的な知識」がなくても言えそうなことなので、ウは不適當である。
- 4 Aは、良太の父親が悔しがっていることから出てきた「別の『もしも』」である。この後の部分から良太についての話が始まることも手がかりになる。中略の部分にあるように、村岡先生の判断で良太は出場しなかったのだから、「先生の頭の中に『もしも』はないのだろうか」というのは、良太を出さなかったことについてであると考えられる。Bは、一つ目の「もしも」である。ただし、「二人があと三秒ずつタイムを縮めていれば」を十字以内にまとめなければならない。直後の一文に注目して、「自分」にしばって書くときよいだろう。
- 5 良太の記録や走る姿を肯定的にとらえている部分も「憧れ」は感じられるが、「気持ち具体的に書かれている」とは言えない。
- 6 イは「自分のせい」がまちがっている。ウは「良太の言葉によって、自分に対する怒りがかきたてられて」もおかしいし、「屈辱を忘れない」もあてはまらない。エも、本文中に「自分に一番ムカついている」とあるのだから「ひらきなおれる」と合わない。
- 7 二人の姿によって、バスの中のふんいきが変わったというところである。それまでは暗く、重いふんいきだったはずである。直後の「薄くなっていた」という言葉ともうまくつながる言葉を探す。
- 8 その後の良太の言葉の中から探すのだが、先生の言いそうな内容であることと、直前に「泣くような結果じゃないよ」とあることに注意する。ポイントは「誇りに思おう」「またがんばればいい」の二つで、良太を連れて行くということは先生が言うべき内容ではなさそうである。少し後の「来年こそ全国大会に行つてほしい」「強い自信」もほぼ同意になるので、こちらを使ってもよいが、文脈から見て、直後の部分を利用して書くのが素直だろう。

3

- 1 ①は、主に経済面で援助して、事業や研究を完成させること。②は、物事の初めのころ。③は、等しい分量に分けること。④は、中心となって他を導くこと。⑤は、前の人が就いていた任務に、その人にかわって就くこと。⑥は、事態の動いていく方向。⑦は、わからなかったことがらを明らかにすること。⑧は、ある地点の、平均海面からの高さ。⑨は、物事の起こる原因となること。⑩は、胸がすっとするようすばらしい行動。⑪は、入場料を取って芸能・スポーツなどの催しを行うこと。⑫は、世の中のどこにでもいる平凡で種々雑多な人々。
- 2 一字共通の同音異義語はよく出題される。出題したものはセットにして、すべて覚えておくこと。